

日本藻類学会 60 周年記念特集

日本藻類学会会長 堀口健雄：日本藻類学会創立 60 周年に寄せて

1952 年 10 月 11 日に設立された日本藻類学会は、今年で創立 60 周年を迎えます。当初、発起人 35 名でスタートした学会は現在、会員数 1000 名近くを擁する学会に成長しました。このような発展は歴代会員の皆様の努力と熱意に支えられたものであり 60 周年という記念の時を迎えるにあたり、感謝の念を新たにすることがあります。学会創設当時の様子や出来事などは、創立 30 周年記念号（藻類 30 巻 4 号 1982 年）や 40 周年記念号（藻類 40 巻 4 号 1992 年）に詳しいのでここでは繰り返しません、機会があれば是非お読みになっていただきたいと思えます。これらの記事を読むとその時々の方々のニーズや国際的な状況等の変化に対応して、学会員が知恵をしぼり様々な改革を行ってきたことがわかります。一つの例が学会誌ですが、A5 版、年 3 回発行の雑誌からスタートし、B5 版の和文・英文混在型の形式に変わり、やがて 1995 年からはさらなる国際化を目指して、英文誌 *Phycological Research* と和文誌「藻類」を分離して発行することになったのはご存じの通りです。英文誌も発行からすでに 17 年を経てすっかり国際的にも認知されるようになりました。最近ではオンライン・サブミッション・システムも導入され、投稿数の増加が期待されます。一方、年 3 回発行される和文誌「藻類」は原著論文発表の場であると同時に、情報共有・教育のメディアとしての色合いを出しており、歴代の編集委員長や編集委員諸氏のご尽力とアイデアにより大変個性的な出版物となっています。この和文誌の存在は大切にしたい藻類学会の個性の一つと思えます。

この 10 年を振り返り、藻類学会の活動の中で大きな出来事は、第 9 回国際藻類学会議（IPC9, Tokyo, 2009）を国際藻類学会との共催で開催したことでしょう。500 名あまりの参加者のうち、335 名が外国からの参加者であったこの大会は、基礎から応用藻学（藻類燃料、CO₂ 除去、環境修復、養殖、赤潮、貝毒など）、藻類と教育に至までの多岐に渡る分野において最先端の情報交換・人的交流の場として機能し、藻類学会会員にとっても大変有意義な会議でありました。特筆すべきは本会議の成功は藻類学会員、特に若手・中堅の会員の皆さんの献身的な貢献がなければとうていあり得なかったことで、藻類学会を担っていかれる皆さんの力に感銘を受けた国際会議でもありました。

ご承知のように近年、藻類およびその近縁の生物群は様々な生物学の分野で注目を浴びています。また、応用面でもエネルギー分野や機能性食品の分野などにおける社会的な関心が高まっています。基礎から応用までをカバーする藻類学会は、研究活動のプラットフォームとしてだけでなく、そのような様々な話題に関する情報発信にも力を入れていく事が求



2009 年に東京で開催された IPC9
(口頭発表会場と Banquet の様子)

められます。その試みのひとつとして、雑誌「藻類」に関しては、1 巻 1 号からすべてのバックナンバーの pdf 化が終了し、最近の 2 年間分を除いては順次藻類学会のホームページ上で一般公開していく予定です。これは学会活動の成果の社会への還元・情報発信であり、多くの方に活用していただきたいと思えます。とは言え、俄然注目を浴びるようになった様々な「顔」をもつ藻類に関する情報発信としてはまだまだ充分でないという反省もあります。これは今後の課題です。ところで 40 周年、50 周年記念号と同様に、この 60 周年記念号にも若手会員からのメッセージが掲載されると聞いております。それぞれがお持ちの問題意識を胸に藻類学会を盛り上げて行っていただけることを期待します。学会創設 60 年、言わば「還暦」とも言えるこの機会に、創設当時の先生方の理想に思いを馳せ、新たな気持ちでさらなる飛躍を期したいものだと思います。

(北海道大学大学院理学研究院)